

在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業（令和2年度新規）

1 目的

高齢化の進展に伴い今後も増え続ける救急搬送需要に対応するため、「(仮称) にいがた QQ連携シート」を作成し、救急時に本人、家族、救急隊、医療ケアチームと共有・活用することで、円滑な救急搬送につなげる。あわせて、普段から治療やケア、過ごし方に関する希望を家族などと共有しておくことの大切さについて、理解と実践を促し、本人の意思が尊重されやすい医療提供体制の強化につなげる。

2 事業

(1) 「(仮称) にいがた QQ連携シート」の作成・運用

既往歴、持病、服薬状況などの医療情報、かかりつけ医や緊急連絡先情報のほか、今後の治療やケアに関する本人の希望、家族等の意向を含めた情報を記載するシートを作成し、救急時に関係者間で共有・活用する。

令和2年度はモデル地区（中央区・西区）で検証

<シート対象者>

西区：要支援・要介護認定者のうち、施設（※1）・短期入所利用者

中央区：要支援・要介護認定者のうち、在宅療養中の者（※2）

※1 ①特別養護老人ホーム ②介護老人保健施設 ③ショートステイ

※2 一部日常生活圏域を対象とする

(2) 救急医療についてのセミナー・研修会の開催

ア 「市民向けワークショップ」

市民へもしものときに受けたい医療や受けたくない医療、正しい医療のかかり方、#7119などのサービスについて理解や関心を深める。

イ 「専門職意思決定支援等研修会」

生活相談員や介護支援専門員、医療ソーシャルワーカーなど支援者を対象とした研修会を開催し、「(仮称) にいがた QQ連携シート」の取扱いや ACP（「人生会議」これからの治療やケアに関する話し合い）の基本理解を習得してもらう。

(3) 在宅医療・救急医療連携ワーキンググループの開催

在宅医療と救急医療の関係者間で個人の医療に関する情報や医療・ケアに関する希望などの意思を共有するための連携ルールについて検討する。

ワーキング構成員：医療・介護関係者、弁護士、消防局（H31.4月設置）